

とうきょう すくわくプログラム活動報告書〈令和7年度〉

法人名	社会福祉法人 崇仁会
施設名	北沢みこころ保育園
所在	世田谷区北沢 4-16-6
クラス	わかば組 2歳児

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然 アリの巣作りを観察しよう！

〈テーマの設定理由〉

わかば組の子どもたちは、アリやダンゴムシなど身近な昆虫が大好きで、園庭や公園でよく観察しているので、アリの巣を作る様子を観察することで、更に自然に興味を持ったり、生き物の命の大切さについて考えるきっかけになったらよいと考えた為。

2. 活動スケジュール

8月上旬 アリの絵本や虫の図鑑を見ながら、アリの生活に興味を持つ。
砂を入れて、アリを飼う準備をする。
アリを捕まえて、砂の入った容器に入れる。
8月～9月 アリに水をやったり、えさを与えて、動きや巣の広がり方を観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具

- ・アリの巣キット(アリのえさ場を含めた容器と砂)
- ・アリ
- ・水やり用のスポイト
- ・アリのエサ(はちみつ、クッキーのかげら)
- ・アリの絵本

4. 環境構成

アリの巣は、揺らして崩れないよう、観察時以外は、保育室の棚の上に置き、観察するときは保育者がテーブルに下ろして観察するようにした。

5. 探究活動の実践

《活動内容》

8月5日 <アリの巣の準備>

アリの巣キットを使って、アリの巣作りの準備をした。新聞を敷き、容器に茶色の砂、白い砂を順番に入れた。

8月12日 <アリ捕獲>

砂遊びのために園庭に出た時に、きゅうりのプランターそばにアリをおびき寄せるためのハチミツを入れた容器を放置。しばらくすると、容器に黒い大きなアリが2匹入っていたので、急いで蓋をして飼育の容器に入れた。2日に1度くらいの頻度で水とえさを入れる。

8月20日 <アリが巣作り開始→撮影開始>

初めてアリが巣を掘り始めたので、子どもたちが iPad を用いて巣を撮影し始めた。その後も2匹ともに真ん中あたりまで巣を掘っていたため水と餌を与えながら様子を見た。



9月20日

アリの1匹が死んでいた。死んでしまったアリと一緒にいるアリにも、死んでしまったアリの匂いがつき、外へ出た際にいじめられてしまうアリの特性があるとのことで、死んでしまったアリは子どもたちと一緒に園庭に出て外へ返した。

9月26日

1匹になってしまった後も観察を続けていたが、しばらくしてもう一匹も死んでしまった為、前回同様園庭から子どもたちと一緒に外に返した。



《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

- ・クラス全体を通して自然に興味があるクラスだった為、アリの巣作りにはとても意欲的だった。
- ・保育者も子どもたちの興味関心につながるようアリの巣の変化にこまめに気を配り、変化があった際には子どもたちに共有し、発見を共感しながら活動を進めた。子どもたちも担任以外の保育士に「巣ができたよ！」などと教えたり、「アリさんどうなった？」と毎日気にかけてりしながら、楽しんで活動に取り組んでいる様子であった。
- ・生き物の命の大切さも少しでも理解できるよう、観察中も「優しくしようね」と声掛けしていくことで次第に子どもたち同士でも「優しくだよ」などと声を掛け合う様子も見られていた。交代で餌や水も上げることで、より興味深く観察できているようだった。最後まで上手く巣を完成させる事ができなかったが、死んでしまったアリを外に一緒に返す際にも「ありがとうアリさん」「元気でね」と声をかける子どもたちの姿が見られていた。

6. 振り返り

《振り返りによって得た保育者の気付き》

- ・今回は最後までアリの巣作りを完成させることは出来なかったが、子どもたち自身が餌や水を与えたり、毎日の生活の中で観察したりしながら、生き物の命の大切さや、より深く自然に興味関心を持つことができていたように思う。
- ・保育者もこまめに観察しながら子どもたちと発見を共有し、一緒に活動を楽しむことができたので良かった。
- ・今回は巣が壊れないように棚の上に置いていたが、置き方や環境を工夫しながら、子どもたちの目に入る位置において、子どもたち自身が気付き、観察しやすいよう工夫していく必要があると感じた。